

V-5 突合せた蕊の熱応力状態

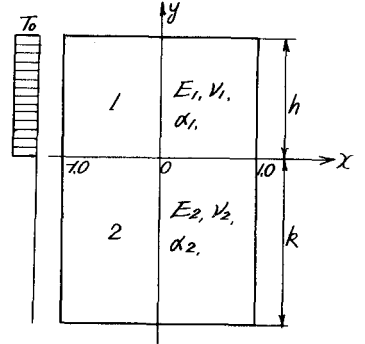
京都大学工学研究所
京都大学大学院

正員 森 忠次
正員 ○小林 昭一

1. 解法

図のよう、帯状板1および帯状板2(厚さはともに d とする)が
 $y=0$ で突合されていて、帯状板1のみに一様な温度上
昇 T_0 が生じ、平面応力状態にあるものとする。

$x=\pm l$ で拘束されて x 方向の膨張を防いけるとすると、帯
状板1には圧縮応力 $\bar{\sigma}_{x,1} = -\alpha_1 E_1 T_0$ が生じ、帯状板2では
 $\bar{\sigma}_{x,2} = 0$ である。しかし、実際には $x=\pm l$ で拘束されてい
ないから、拘束を解放する力、すなわち帯状板1の表面 $x=\pm l$
上に引張力 $P_{x,1} = \alpha_1 E_1 T_0$ を作用させる必要がある。その場合
に生じた応力を附加応力といい、それぞれ $\sigma_{x,1}^*$, $\sigma_{y,1}^*$, $\tau_{xy,1}^*$ お
よび $\sigma_{x,2}^*$, $\sigma_{y,2}^*$, $\tau_{xy,2}^*$ とすると、熱応力は



$$\left. \begin{aligned} \sigma_{x,1} &= \bar{\sigma}_{x,1} + \sigma_{x,1}^*, & \sigma_{y,1} &= \sigma_{y,1}^*, & \tau_{xy,1} &= \tau_{xy,1}^* \\ \sigma_{x,2} &= \bar{\sigma}_{x,2} + \sigma_{x,2}^*, & \sigma_{y,2} &= \sigma_{y,2}^*, & \tau_{xy,2} &= \tau_{xy,2}^* \end{aligned} \right\} (1)$$

で表わせる。

附加応力を求めるための応力函数は

$$\left. \begin{aligned} \Phi_1 &= \frac{\alpha_1 E_1 T_0}{2} y^2 + \sum_n f_n(x) g_{n,1}(y) \\ \Phi_2 &= \sum_n f_n(x) g_{n,2}(y) \end{aligned} \right\} (2)$$

とする。ここに、 $g_{n,1}(y)$, $g_{n,2}(y)$ は未知函数であり、 $f_n(x)$ は $y=0$ なる断面での合力が常に釣
合っていることを考えて

$$f_n(\pm l) = f_n'(\pm l) = 0$$

となるような正規直交函数であるとする。

potential energy 最小の原理を適用して

$$\delta V = \delta \left[\frac{d}{2E} \int_0^h \int_{-l}^l \{ \sigma_x^{*2} + \sigma_y^{*2} - 2\nu \sigma_x^* \sigma_y^* + 2(1+\nu) \tau_{xy}^{*2} \} dx dy - d \int_{-l}^l \{ \sigma_y^* v(x,0) + \tau_{xy}^* u(x,0) \} dx \right] = 0$$

これに、上述の応力函数を用い、 $f_n(x)$ の性質を利用し、微小項を省略して、つぎの Euler の方
程式を得る。

帯状板1については、

$$g_{n,1}''(y) - 2 \langle f_n' f_n' \rangle g_{n,1}''(y) + \langle f_n'' f_n'' \rangle g_{n,1}(y) = 0 \quad (3)$$

帯状板2については、

$$g_{n,2}''(y) - 2 \langle f_n' f_n' \rangle g_{n,2}''(y) + \langle f_n'' f_n'' \rangle g_{n,2}(y) = 0 \quad (4)$$

この式の一般解は

$$y \geq 0 : g_{n,1}(y) = e^{-\alpha_n y} (A_{n,1} \cos \beta_n y + B_{n,1} \sin \beta_n y) + e^{\alpha_n y} (C_{n,1} \cos \beta_n y + D_{n,1} \sin \beta_n y) \quad (5)$$

$$y \leq 0: \quad g_{n,2}(y) = e^{-\alpha_n y} (A_{n,2} \cos \beta_n y + B_{n,2} \sin \beta_n y) + e^{\alpha_n y} (C_{n,2} \cos \beta_n y + D_{n,2} \sin \beta_n y) \quad (6)$$

となる。

係数 A_n, B_n, C_n, D_n はつぎの条件から定められる。

$$\left. \begin{aligned} y=0 \text{ で, } & u_1=u_2, \quad v_1=v_2, \quad \sigma_{y,1}^* = \sigma_{y,2}^*, \quad \tau_{xy,1}^* = \tau_{xy,2}^* \\ y=h \text{ で, } & \sigma_{y,1}^* = \tau_{xy,1}^* = 0 \\ y=-k \text{ で, } & \sigma_{y,2}^* = \tau_{xy,2}^* = 0 \end{aligned} \right\} \quad (7)$$

ここに, u, v は, それぞれ x 方向および y 方向の変位を表す。

(7) 式における変位, たとえば u_2 および v_2 について はつぎのようにして求めることができる。

変位函数を ψ_2 とすると,

$$\frac{\partial^2 \psi_2}{\partial x \partial y} = \nabla^2 \psi_2 = \sum_n f_n''(x) g_{n,2}(y) + \sum_n f_n(x) g_{n,2}''(y)$$

だから,

$$\psi_2 = \sum_n f_n'(x) \tilde{g}_{n,2}(y) + \sum_n \tilde{f}_n(x) g_{n,2}'(y) + \sum_n \tilde{f}_n(x) + \sum_n \tilde{K}_n(y)$$

となり, 変位は,

$$\left. \begin{aligned} E_2 u_2 &= -(1+\nu_2) \frac{\partial \psi_2}{\partial x} + \frac{\partial \psi_2}{\partial y} = \sum_n \{ \tilde{f}_n'(x) g_{n,2}''(y) - \nu_2 f_n'(x) g_{n,2}'(y) + K_n(y) \} \\ E_2 v_2 &= -(1+\nu_2) \frac{\partial \psi_2}{\partial y} + \frac{\partial \psi_2}{\partial x} = \sum_n \{ f_n''(x) \tilde{g}_{n,2}(y) - \nu_2 f_n(x) g_{n,2}'(y) + J_n(x) \} \end{aligned} \right\} \quad (8)$$

となる。ここに

$$\tilde{f}_n(x) = \int_0^x f_n(x) dx, \quad \tilde{g}_{n,2}(y) = \int_0^y g_{n,2}(y) dy$$

である。 $K_n(y), J_n(x)$ は

$$\int_0^h \int_{-l}^l \frac{E_2}{2(1+\nu_2)} \left(\frac{\partial u_2}{\partial y} + \frac{\partial v_2}{\partial x} \right) dx dy = \int_0^h \int_{-l}^l \tau_{xy,2}^* dx dy \quad (9)$$

なる条件よりつぎのようになる。

$$\begin{aligned} J_n(x) &= 0 \\ K_n(y) &= \begin{cases} 0 & n: \text{偶数} \\ -\tilde{f}_n'(l) g_{n,2}''(y) - f_n''(l) \tilde{g}_{n,2}(y) & n: \text{奇数} \end{cases} \end{aligned}$$

したがって, $y=0$ における変位は, 基準点を座標原点にとると

$$\begin{aligned} E_2 u_2 &= \sum_n \{ f_n''(x) g_{n,2}''(0) - \nu_2 f_n'(x) g_{n,2}'(0) \} \\ E_2 v_2 &= \sum_n \{ f_n''(x) \tilde{g}_{n,2}(0) - \nu_2 f_n(x) g_{n,2}'(0) \} - \sum_n \{ f_n''(0) \tilde{g}_{n,2}(0) - \nu_2 f_n(0) g_{n,2}'(0) \} \end{aligned}$$

となる。

2. 計算例

つぎの場合について解析を行った。

$$i) \quad h=k=\infty, \quad \nu_1=\nu_2=0, \quad K=\frac{E_1}{E_2}=0, \frac{1}{20}, \frac{1}{10}, \frac{1}{5}, \frac{1}{2}, 1, 2, 5, 10, 20,$$

$$ii) \quad h=1, \frac{1}{2}, \frac{1}{4}, \quad k=\infty, \quad \nu_1=\nu_2=0, \quad K=1$$